

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和元年11月22日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：児嶋長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○児嶋総務課長 報道官の児嶋です。

それでは、お手元の広報日程に従いまして、補足説明をさせていただきます。

まず、2の審査会合についてです。1ページおめくりください。2ページ目、一番上から参ります。

11月25日月曜日、（3）第315回核燃料施設等の新規制基準適合性に係る審査会合、こちらは前回のブリーフィングでも説明したのですけれども、議題3と4が追加になっております。

議題3ですが、日本原子力研究開発機構（JAEA）の定常臨界実験装置（STACY）の設計・工事方法認可に関しまして、第3回の分割申請に関する11月11日の会合のコメント回答を受けるものです。

議題4は、JAEAの原子力科学研究所の保安規定の変更認可に関しまして、周辺監視区域の変更に関する8月5日の申請があったことから、その概要説明を受けるものです。

続きまして、その下に参ります。11月26日火曜日、（5）第18回会合検査制度の見直しに関する検討チーム、こちらの議題1、議題3、議題4は、11月5日に行われた検査制度の見直しに関するワーキンググループで議論されたものを、こちらの検討チームで有識者の意見を伺うものです。

省略させていただきましたが、次に、議題2ですけれども、こちらは10月2日の原子力規制委員会で、核燃料施設等における新検査制度での検査指摘事項の重要度評価につきまして、再考するよう指示があったことを踏まえまして、原子力規制庁としての新しい評価方法の案を検討チームで議論していただくものです。

続きまして、1枚おめくりいただきまして、3ページ一番上から参ります。

11月27日水曜日、（7）第6回原子炉安全専門審査会原子炉火山部会会合、こちらは議題が2つございます。

一番上は、九州電力が玄海原子力発電所と川内原子力発電所に関する昨年度の火山モニタリングの結果を報告していることから、その評価について議論をしていただくものです。

議題2ですが、火山モニタリングの観測データの中で、有意な変化があったかどうかを判断するために着目する監視項目について、議論をしていただくものです。

続きまして、(8) 第317回核燃料施設等の新規制基準適合性に係る審査会合、こちらは日本原燃・廃棄物埋設施設の事業変更許可に関しまして、廃止措置開始以後の放射線量の評価等について、10月10日の会合のコメント回答を受けるものです。

続きまして、その下、11月28日木曜日、(10) 第35回東海再処理施設安全監視チーム会合、こちらは議題が2つございます。

議題の1つ目は、JAEA・東海再処理施設の廃止措置計画に関しまして、11月6日の会合で原子力規制委員会より今後の具体的工程について示すよう指示をしたところ、今回、高レベル放射性廃液のガラス固化作業の今後の具体的工程について、説明を受けるものです。

議題2ですが、東海再処理施設の廃止措置全体について、進捗状況等の説明を受けるものです。

1枚おめくりください。4ページ目、一番上から行きます。

(12) 第8回東京電力福島第一原子力発電所における事故の分析に係る検討会、こちらは金子長官官房審議官の対応となります。ただし、更田委員長も出席されます。

議題ですけれども、そこにございますとおり、当面、最優先で行う1・2号機のベント配管の汚染に関する分析につきまして、これまでの調査結果のデータを踏まえて、論点や追加調査事項について議論をするものです。

続きまして、11月29日金曜日、(14) 第804回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合、こちらは電源開発・大間原子力発電所の設置変更許可に関しまして、敷地内の破砕帯の活動性評価に関する4月5日の会合のコメント回答を受けるものです。

最後となります。「3. 委員の現地調査について」です。

(2) 中国電力株式会社島根原子力発電所の現地視察、こちらは30日の9時からとなります。これは、更田委員長が中国電力・島根原子力発電所2号機の安全対策と1号機の原子炉格納容器を視察するものです。

私からは以上となります。

<質疑応答>

○司会 それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。

質問のある方は手を挙げてください。ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。

委員長の島根の視察ですけれども、廃炉措置中の島根1号機格納容器を御視察なさる狙いというのは、何か聞いていらっしゃいますか。

○児嶋総務課長 島根1号機の廃炉措置中ですけれども、原子炉格納容器の大きさがいわゆ

る福島第一原子力発電所1号機に類似しています。今、1F事故の分析を進めていますので、その参考とするために視察するものです。

○記者 お言葉を返すようなのですけれども、福島第二原発にも似たような炉型のものがあって、そちらには行かないで島根に行くということは、同一型であるということが理由でしょうか。

○児嶋総務課長 そのように聞いています。ただ、他方、それ以外にも、島根原発に最近行かれていないので、そこも見たいという御意見もあったと聞いています。

○記者 あと、関連で、最後にしますけれども、島根原発はオフサイトの内閣府、政府の避難訓練があり、それから、中国電力は多分、臨時規制委員会等々もあり、経営者との意見交換もあり、それから、委員長も島根に行く。何かこれはあれですか。今月中にまとめてやるというのは、何か合格が近いからとか、そういうことですか。

○児嶋総務課長 偶然です。

○記者 分かりました。ありがとうございました。

○司会 ほか、ございますでしょうか。フクオカさん。

○記者 日本経済新聞のフクオカです。

(7) についてなのですけれども、議題2の判断する目安についてと監視項目を議論することなののですけれども、この判断する目安について、何か事務局からみたいなのが示されて、それについて議論するということなののでしょうか。

○児嶋総務課長 過去2回、前々回の去年の8月から議論を進めていまして、監視項目について案を示すということです。

○記者 もう一点、済みません。(12)の議題1のベント配管の汚染について議題になっているのですけれども、これまでの調査結果というのは、最近、何か調査をやって、その結果が出てくるということなののでしょうか。

○児嶋総務課長 最近も調査をやっておりますし、それ以前から別の件の調査もやっていますので、今回のベント配管の汚染の分析に役立つようなデータを集めてきて、全部で見るとのことだそうです。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほか、ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。お疲れさまでした。